

## ラストベルトの中心で埼玉を叫ぶ

林 悠生

留学先：アメリカ合衆国

はじめまして！ 2018年の7月末から19年6月初めにかけて、アメリカ北東部のミシガン州に留学していた林です。トランプ大統領の支持層が多いといわれるラストベルト（さびついた工業地帯）のど真ん中で、ホストペアレンツと友人2人の4人が暮らす家庭にホームステイして、10カ月間を過ごしました。

現地の暮らしで強く印象に残っているのは、日本と比べて信じられないほど寒冷的な気候です。今年は特に寒く、時には氷点下30度を下回り、南極より寒い日すらありました。

通っていたプリマス高校の大きさも印象的でした。一つのキャンパス内に三つの高校があり、在籍する生徒は、なんと6千人。授業が終わるたびに、校舎から別の校舎へと外を移動しなくてはならなかったのが、真冬の1、2月には4、5枚も重ね着して通っていました。

6千人もの生徒がいたので、想像していた通り人種も、国籍も、考え方も違う人たちが集まっていて、日々の暮らしのなかで多様な文化に触れることができました。

生徒たちに共通していたのは、ピザ好きということぐらい。その影響を受け、僕もピザの虜になり、当初は隙あらばピザの出前を頼むという生活をしていました。しかし、1カ月ほどたったころから「デブ活」の毎日に危機感を覚え、友だちづくりも兼ねて、日本の高校でもやっていたテニス部に入部。すると、共通の趣味が功を奏したのか、思っていた以上に簡単に友だちができました。

プリマス高校では、3カ月ごとに部活が変わっていきます。最初に入ったテニス部でも、その後に入った水泳部や陸上部でも、話しかけてもらうのを待っているのではなく、こちらからドンドンと話しかけるようにすれば、貧弱な英語であっても周囲の人たちとすぐに仲良くなれました。英語力よりも、仲良くなりたいという姿勢を見せることの方が、ずっと大切なのでしょう。

仲良くなった友だちには、埼玉親善大使として埼玉が誇る漫画の『クレヨンしんちゃん』や、行田市のさきたま古墳群に代表される県内各地にある多くの古墳、県内では熊谷ラグビー場が会場になっている2019年のラグビーワールドカップのことを紹介してきました。

日本のアニメはアメリカでもかなり人気が高く、プリマス高校には日本のアニメクラブがあるほどでした。アニメクラブの同級生に、英語の字幕がついたクレヨンしんちゃんのアニメを見せたところ、みんな笑いながら鑑賞していました。クラブの友人たちは、最強ヒーローサイタマが主人公の人気漫画『ワンパンマン』のことも知っていたので、「自分の高校は埼玉県にある」と伝えたところ、「日本人は地名を名前にするの！？」

「やあ、日本では、俺の名前はミシガンになってしまうのか」と驚いていました。

慣れない英語で、ワンパンマンの主人公の名前はたまたま埼玉と同じであること、日本人の名前は地名ばかりではないことなどを説明し、会話が弾みました。

古墳のことは、春休みにホストファミリーに旅行に連れて行ってもらった時に思い出しました。陸上部の友だちに、満開の桜が咲き誇る丸墓山古墳や、さきたま古墳公園の写真を見せたところ、「めっちゃめっちゃキレイじゃないか。オレもこの丘に登ってみたい!」と驚いていました。

「これは丘じゃないんだ。お墓だよ」と伝えるとさらに驚き、「えっ、デカくないか。日本人は他人のお墓に登るのか。しかも、墓の上に桜まで植えるのか!？」という反応が返ってきました。この友人は高校を卒業したら日本に遊びに来るというので、アメリカで色々なところへ連れて行ってくれたお返しも兼ねて、「その時は古墳群へ連れて行くよ」と約束しました。

留学も終盤に差し掛かった10カ月目には、アメフト部に参加しました。試合や練習などのシーズンが本格的に始まるのは、僕が日本に戻った後の7月ごろからだったので、練習は筋トレや軽いミニゲームが中心でした。

ラグビーワールドカップのことは、アメフト部の友だちに伝えました。

ボールの形が似ているし、ラグビーのルールを教えたら興味を持つのではないかと思います。インターネットで調べて実際にミニゲームをやってみたところ、初めは「おい、何で前に投げられないんだ!」とかなり混乱していましたが、さすがアメフト部の面々だけあって、すぐに慣れて楽しんでいました。

評判が良かったことに意を強くして、翌日は「ラグビーってめっちゃめっちゃカッコよくてエキサイティングなスポーツなんだけど、今年ワールドカップが日本であるの知ってる?」と伝え、YouTubeで試合のハイライト動画を見せてみました。すると、「なにこれ、すごくカッコいい! オレも埼玉に見に行きたい。飛行機代出してよ」と食いついてきました。

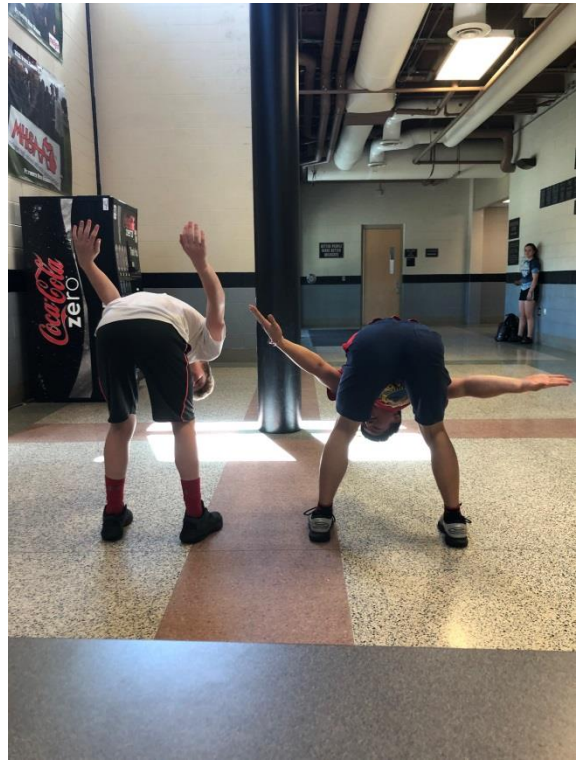
「いや、ごめん。さすがに高過ぎる(笑)。それに、アメフトのシーズンど真ん中だよ」と返事をすると、「じゃあ、今年の夏休みは一緒にフェイスタイム(無料のテレビ電話)をしながら、テレビ中継の中継で埼玉のラグビーワールドカップを見よーぜ」と意気込んでいました。

留学の10カ月間を振り返ってみると、初めは異なる文化や習慣、使い慣れない言語に戸惑い、笑顔で何とか乗り切っているという感じでした。けれど、2カ月も過ぎると現地の生活にも慣れ、友だちとも楽しく話せるようになりました。目標であった異文化を体験して楽しむと同時に、親善大使として少しは埼玉県魅力を伝えられたのではないかと思います。

今年の夏休み、友だちと一緒にラグビーのワールドカップを見るのが今から楽しみです。



友達にラグビーボールの投げ方を教えました



アニメ クレヨンしんちゃんのポーズ



友達と2人で古墳のポーズに挑戦